

「長崎と東アジア」 その歴史的接点

<友好都市 福建省>

鄭成功、隠元ゆかりの地である福建省と長崎県は、1982年に友好都市を結びました。古くから中国との交流が盛んに行われてきた長崎県ですが、中でも特に福建省とのつながりは深く、今でも様々な交流が行われています。

nagasaki topics

私たちが住んでいる長崎県は、古くから海外との交流によって栄えてきました。なかでも、隣国である中国、韓国との交流は深く、さまざまな試練を乗り越え、その絆を強めてきました。ここでは、その交流の一部をみなさんにご紹介します。

(1) 長崎ゆかりの中国の偉人たち

人形浄瑠璃『国性爺合戦』(近松門左衛門作)の主人公「鄭成功」

鄭成功は、1624年、中国福建省出身。鄭芝龍を父に平戸川内(長崎県)の田川マツを母として平戸で生まれました。7歳で日本を離れ父のいる中国に渡った鄭成功は、22歳のとき、明の皇帝 隆武帝から明王朝の国姓(皇帝と同じ姓)「朱」を授かったので人々から「国姓爺」と呼ばれました。鄭成功は、父と共に崩壊寸前の明を助け、満州族が建てた清と戦い、父が降参した後も明の復興のために戦い続けました。長崎奉行を通じて日本に軍事援助を求めましたが、援軍は出されませんでした。しかし、長崎の中島銭座では、銭を造るなどして資金面での援助をしたと言われています。不利な戦いを続ける中で、鄭成功は台湾を占拠していたオランダ人を追放して根拠地としますが、39歳の若さで病死しました。



鄭成功廟(平戸市)の鄭成功像(提供:平戸市)

インゲン豆を伝えたことでも有名な高僧「隠元」

1654年、63歳の隠元は、長崎の僧侶らの要請に応え、鄭成功が仕立てた船に乗り、中国福建省から長崎へやってきました。長崎の興福寺と崇福寺で約1年を過ごした隠元は、その後、徳川将軍家の保護を受け、京都の宇治に黄檗山萬福寺を開き「黄檗宗」の開祖となりました。江戸時代の日本の仏教界だけでなく、絵画や書などの芸術や食などのさまざまな分野で大きな影響を与えました。例えば、インゲン豆は隠元の名前に由来しており、蓮根、タケノコ、スイカ、ナス、煎茶、もやし、書体の明朝体



隠元禪師画像
(提供:長崎歴史文化博物館)

や20字一行の原稿用紙の形式なども隠元とその弟子たちが日本にもたらしたと伝えられています。

中国「革命の父」孫文と長崎

江戸時代から長崎は中国との交易の窓口であり、時代が明治となっても、上海などから多くの中国人がやってきました。長崎は日本と世界各地とをつなぐ重要な港であり近代中国革命の志士たちを受入れる窓口でした。

孫文もその一人で、長崎を9回も訪れていました。孫文は、香港で医学を学び、医師となっていました。孫文は、香港で医学を学び、医師となっていました。孫文は、香港で医学を学び、医師となっていました。



福建会館(長崎市)の孫文像(提供:県国際課)

より、社会の病を治したい」という志のもと、辛亥革命へとつながる革命活動に尽力することとなります。そんな彼とゆかりのある長崎県関係者として、『東洋日の出新聞』の社主 鈴木天眼や、小説「姿三四郎」のモデル 西郷四郎、長崎県出身の金子克己、渡邊元、梅屋庄吉などがいます。

＜長崎近代交流史と

孫文・梅屋庄吉ミュージアム＞

長崎が日本の近代化に果たした役割や、孫文と梅屋庄吉の国境を越えた厚い友情とその功績について紹介しています。（所在地：長崎市松が枝町4-27）



（提供：長崎歴史文化博物館）

（2）日本と朝鮮との交流の懸け橋と なった朝鮮通信使と対馬

豊臣秀吉による朝鮮出兵により日本と朝鮮国の関係は途絶え、室町時代以来続いた朝鮮通信使の往来はストップしました。その後、対馬藩による粘り強い交渉の末、1607年に朝鮮通信使は復活しました。朝鮮通信使は、以来1811年までのおよそ200年の間に12回に亘り日本を訪れ、両国の人々の相互理解を深める



対馬厳原港まつりにおける朝鮮通信使行列再現の様子
（提供：県国際課）

ことに大きく貢献しました。また、対馬藩は朝鮮との窓口として両国の交流に大きな役割を果たしました。対馬では今も、行列再現など様々な交流行事が活発に行われています。両国の民間団体が、この交流の歴史を世界の人々に伝えるため、対馬や壱岐をはじめ両国に残る朝鮮通信使に関する資料をユネスコ「世界の記憶」に登録するため取り組み、平成29年10月31日に登録されました。

長崎県としての取組

～中国・韓国との交流の歴史を未来へつなぐ～

これからの長崎県と中国・韓国との新しい交流を築いていくのは、次代を担う若者たちです。そこで、長崎県では、若者たちが中国、韓国との今後の友好交流について考える「孫文・梅屋庄吉塾」、「日韓未来塾」、「日中韓トライアングル交流会」が開催されています。

日中「孫文・梅屋庄吉塾2016」グループ討議の様子



釜山広域市 甘川文化村での文化体験
「日韓未来塾2016」



「日中韓トライアングル交流会」での集合写真

（上記3点 写真提供：県国際課）

＜友好交流都市 釜山広域市＞

朝鮮通信使が日本に向けて出発した釜山広域市と長崎県は、2014年に友好交流協定を結びました。本県の対馬市から釜山広域市までの距離はわずか49.5kmであり、古くから交流が行われてきました。今でも対馬市などを中心に活発な交流が行われています。